

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協力会
公報 NO.56号

すべてのことをなさるのは同じ神です



JOMA 会長 池原三善

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから終わりの日が来ます。」マタイ 24:14

1971年7月2日に海外宣教連絡協力会(JOMA)の設立趣意書が福音的な諸教会に出されて、古山洋右師(故人)が総主事として活躍されてから今日まで宣教団体や諸教団を中心としてJOMAは2005年現在17の加盟団体によって働きがなされています。

目的は日本の福音的諸教会の海外宣教部門、並びにそうした諸教会や宣教団体が協力して送り出す方も、送り出される方も、様々な国々の国情、言語、生活環境の違いの中で、いかに効果的に生の働きのための奉仕ができるか、お互いの欠けている所を補い合いながら、仕えていけるように、情報を交換しながら御国の建設のために労しているならば幸いです。

そのために昨年はJOMA通信を二回発行(6月・9月)。さらに11月5日に「宣教師と宣教団体の危機管理」というテーマでロドニー・ヒュイ師(OM東アジア・太平洋地区総括責任者)をお迎えして開催しました。今年は8月25日、OCC小チャペルで、ウィクリフ聖書翻訳協会のスティーブ・バージス師ご夫妻をお迎えして「宣教師のメンバーケ

ア」をテーマにセミナーを開催致しました。

宣教地図の発行は少し趣きを変えて、11月中に発行予定です。また、さらに新しい働きとして、宣教大会を九州(久留米地域)開催について年度内を目指しています。

最後にJOMAの目的事業について、規約の3・4を載せてお祈りとさらなるご協力をお願い申し上げます。

3. 信仰の立場

聖書は十全靈感による誤りなき神の言葉であり、信仰と生活の唯一の基準であることを信ずる。

4. 目的と事業

日本の福音的諸教会の海外宣教部門、ならびにそうした諸教会を背景とした宣教団体が、共通の領域での協力をはかり、将来のさらに効果的な海外宣教のあり方を求めることを目的とする。

1) プロモーション

諸教会の間に海外宣教についての理解が深められるための事業および宣教団体の効果的な協力を促進するための事業を行なう。

2) フェローシップ

会議、研究会、宣教大会などの開催によって、会員相互の交わりを深める。

以上、さらに多くの仲間が増える事を切に祈ります。

海外宣教連絡協力会 設立趣意書

日本から海外への宣教師が次第にその数を増し、その動きの分野がひろがりつつあることは、主が日本の教会を世界宣教のためにさらに用いようとしておられることの一つのしるしであろう。宣教師を送り出し、その働きを支えるためにおこされ、用いられてきた宣教団体や組織の役割も、今後ますます重要な意味を持つようになると信じられる。それだけに、働きの成長にともなっているいろいろな面にあらわれてきた問題や矛盾を軽視することは許されない。これから、これらの問題にどのように対処していくかが、日本の海外宣教の働きの進展のための一つの鍵となると考えられる。

国の内外を問わず、本来、宣教はそれ自体主より教会に託された責任である。特定の宣教師、または宣教団体が海外宣教を行い、教会がそれを支援するのではなく、教会が海外でも宣教をするのであり、教会のこの働きを効果的にするために宣教団体がある。このことの理解は各宣教団体がそれぞれの立場を越えて、日本の福音的諸教会全体の立場から海外宣教を考えることを要求する。

一人の新しい宣教師を送り出すために、そのつど新しい宣教団体が創られなければならないような現実、事務上の取り扱いについて諸教会に必要以上の負担を強い、さらに海外の宣教の働きそのものそのものについて、教会にも混乱をもたらさなかつたとは言いがたい。宣教師の資格認定などについてさえ、現在においてもなお教会が全く関知し得ない実情であるとすれば、教会の目的につかえる宣教団体であるより、教会の奉仕を求める宣教団体となつていても不思議ではない。教会に奉仕しているつもりが、実は教会とは別の基盤に立つにすぎず、すべてが宣教団体の独善であるとしか見られなくなるような不幸な事態の起こるのを憂慮する。

なるほど、海外宣教についての先進国である欧米諸国の例を見れば、個人的な重荷が全教会の重荷とされ、個々別々の宣教団体がひとつの協力機関を生み出すまでには相当の年月を要している。しかし、日本の教会は海外宣教のこの19世紀的発展のパターンを忠実に守ろうとする必要はないと考える。

日本の異なつた団体の宣教師が、同じ宣教地で働くというケースもすでに現実となつている。彼らが日本からの宣教師としてひとつの心を持って協力して労することができるようになるためにも、日本の宣教団体は可能性に満ちた、この新しい時代に、正しく、鋭く対応しなければならないと信じる。このことが聖書的な教会一致の理解をも深め、教会協力の実質的な前進を可能にするためのひとつの要因となることを信じる。

以上のことをふまえて、私たち日本の教会の海外宣教に重荷を持つ者たちは、何回か会合し、祈りつつ準備を重ねてきましたが、ここに規約を定め、海外宣教連絡協力会 (Japan Overseas Missions Association) を設立することになりました。この趣旨に賛同される海外宣教団体の加盟を主にあつて切望します。

1971年7月2日

海外宣教連絡協力会

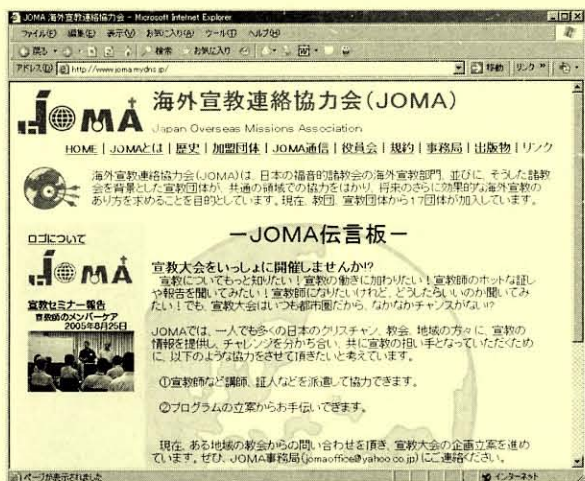
JOMAホームページ

今後さらに内容を充実させ、世界宣教の情報、各加盟団体の宣教集会・セミナーのお知らせ等、「このサイトへ行けば世界宣教の情報が手に入る」と言われるサイトへと成長していくことを期待します。そのためにも、各加盟団体からの情報をぜひお寄せください。具体的には：

- ・ 宣教集会・セミナーの案内、およびその報告
- ・ 宣教旅行等の募集案内

などです。各団体のホームページにすでに詳しい情報が掲載されている場合は、簡単な説明と共にリンク・アドレスをお知らせください。

今後より良いホームページに育てていくためにも、皆様のご意見、ご希望を webmaster@joma.mydns.jp 宛にお寄せいただければ感謝です。

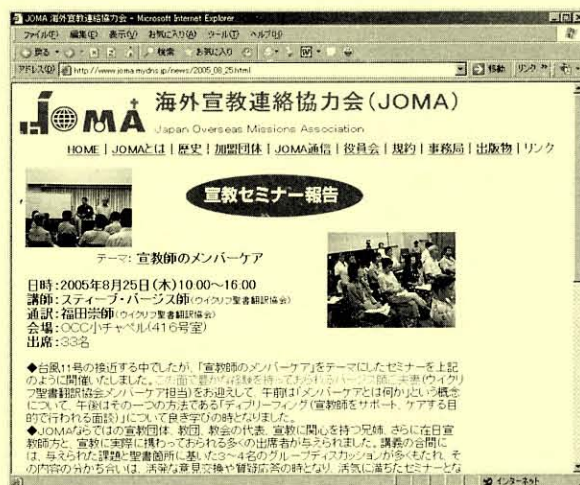


www.joma.mydns.jp

今やインターネットの普及が進み、日本では7800万人を越える人々がインターネットを利用する時代になりました。皆さんも何かの情報を調べようと思うと、まず真っ先にインターネットで知りたい情報を検索されるのではないのでしょうか。このような時代にあって JOMA ホームページ開設の必要性の声が上がると、今年の総会の折にも、ある方からインターネットで JOMA を検索したが何の情報もネット上に見つからなかった、というご指摘がありました。役員会でもその必要性と重要性を認識し、まずは簡単なものからスタートしようと、現在の JOMA ホームページが開設されました。

現在のホームページの内容は、

- ・ JOMA の紹介
- ・ JOMA の歴史
- ・ JOMA 加盟団体の紹介
- ・ JOMA 通信バックナンバー
- ・ JOMA 役員会議事録
(アクセスにはパスワードが必要)
- ・ JOMA 規約
- ・ JOMA 事務局の紹介
- ・ JOMA 出版物



リンクのお願い

団体のホームページ、教会のホームページ、個人のホームページなどに、ぜひ JOMA ホームページへのリンクを貼ってくださるようお願いいたします！リンクを貼っていただける際には、そのページのアドレスを webmaster@joma.mydns.jp までお知らせくだされば感謝です。皆様のご協力をお願いいたします。

JOMA ホームページ担当 酒井信也 (OM 日本)

宣教セミナー報告

日時：2005年8月25日（木）
10:00～16:00

講師：スティーブ・バークス師
（ウイクリフ聖書翻訳協会）

通訳：福田崇師（ウイクリフ聖書翻訳協会）

会場：OCC小チャペル（416号室）

出席：33名

◆台風11号の接近する中でしたが、「宣教師のメンバーケア」をテーマにしたセミナーを上記のように開催いたしました。この面で豊かな経験を持っておられるバークス師ご夫妻（ウイクリフ聖書翻訳協会メンバーケア担当）をお迎えして、午前は「メンバーケアとは何か」という概念について、午後はその一つの方法である「ディブリーフィング（宣教師をサポート、ケアする目的で行われる面談）」について良き学びの時となりました。

◆JOMAならではの宣教団体、教団、教会の代表、宣教に関心を持つ兄弟、さらに在日宣教師方と、宣教に実際に携わっておられる多くの出席者が与えられました。講義の合間には、与えられた課題と聖書箇所に基づいた3～4名のグループディスカッションが多くもたれ、その内容の分かち合いは、活発な意見交換や質疑応答の時となり、活気に満ちたセミナーとなりました。このテーマへの関心の高さは、宣教の推進にとってどんなに切実な課題であるかを示すものでもあったように感じます。

◆まず午前、宣教者パウロとピリピやコリントの教会との関係を軸に、メンバーケアの実例と必要性、私たちの現状を知る時となりました。要約すると以下の3点にまとめられます。

1. 「メンバーケア」の焦点は、宣教師の疲労やストレスへの対処から、宣教師が健康を保ち、問題やストレスからいかに早く立ち直ることができるかに移行していること。

2. 宣教の推進の鍵は宣教師であり、支える教会、宣教チームとの健康的な関係（主にある一致）が世に対する証しとなること。

3. 宣教フィールドにおける宣教師自身のセルフケア、同労者同士のケア、支える側の一貫した総合的なケアとサポートの確立（働きと成果優先から宣教師ケアへの理解と実践）、牧会的、専門的カウンセリングの人材の確保などが必要であること。



◆午後は、実際のケアの一つとしての「ディブリーフィング」が扱われました。冒頭には、ソロモンの例から聴く力の重要性が、締め括りには、苦難を受けたヨブに神様が行われた「ディブリーフィング」の実例が聖書から示されながら、以下の2点について語られました。

1. 「ディブリーフィング」とは、宣教師のケア、サポートという明確な目的のために、大小の区切りのできごと、帰国時、緊急災害時などに、できるだけ速やかに時をとって宣教師に聴くことがその基本であること。

2. 「ディブリーフィング」には以下の4段階とそれに応じた聞き手の資質や備えが必要であること。

A) 経験した事実を聴く（支えてくれる友人的聞き手）

B) 働きの評価、方向性の決定を探る（一定の評価、方向性を示せる上司的聞き手）

C) 危機的状況・トラウマに対処する（トラウマやストレスに対する訓練を受けた専門的聞き手）

D) 過去の痛みや経験を癒す（セラピー、PTSDに対する専門的聞き手）

◆今回は、本当にその概要だけを駆け足で学びましたが、理解と実践を深めてゆけるよう、今後もJOMAを通じて、情報交換、研鑽が続けられることを期待しつつ、簡単ですが報告とします。

（文責 JOMA 書記 蔦田康毅）

当日参加された方々の声をアンケートの中からご紹介しましょう。

*** 聖書から**

- ・ 聖書のみことばから、(メンバーケアについて)一つ一つ確認できた。
- ・ 大切なことは聖書の教えの実践とパートナーシップを築き上げていく事だと教えられた。

バージスさんが引用したみことばは以下の通りです。
ユダ 20-23、ヘブル 10:23-25、エペソ 4:1-4、ローマ 12:3-4、コロサイ 3:11-14、ヤコブ 5:19-20、ピリピ 2-3-8

*** 互いの関係**

- ・ 宣教団体と宣教師が、宣教地での働きとその必要について一致して送り出していく時、宣教師に本当に必要なケアをしていける。
- ・ 団体間、チームの中での健康的な関係の中で、宣教師の働きが大きく用いられることを知った。

宣教師が奉仕を止める場合にはさまざまな理由があります。一番多い理由が「任地での人間関係、送り出されている宣教団体、教会側との関係」と言われています。

*** 聞くこと**

- ・ 聞くこと、ただひたすら聞くこと
- ・ 声を聞き、共に痛みを担って歩むという同労の働き
- ・ 宣教師の思いに心を傾け、喜んで聞いていく姿勢と実際の場を用意していくことを教えられた。
- ・ 宣教師、宣教団体だけでなく教会のなかで信徒同士でも必要なことだと思った。

ケアする心で聞く時に相手は励まされ、力づけられます。宣教師にとってばかりでなく、教会の中でも必要であると思うという意見が複数ありました。

今回はグループに分かれて互いの思いを伝え、聞き、また互いの具体的な意見を出し合う機会を複数回持ちました。分かち合うことで学びが深められた

という声が複数ありました。またJOMAでできることとして、各団体のリーダーのためのケア、小冊子の発行、支える側の学びの場などの希望が出されました。

テープ：注文・販売を希望される方はJOMA事務局坂庭姉までお申し込み下さい。

◆ 参考図書の紹介

* 送り出す(支援する)宣教団体や教会側のできるケアについて、精神面、实际的、祈り、コミュニケーション、帰国時のサポートなどの実例と具体的な手だてが紹介されている本です。

「送り出す者として」

著者：ニール・ピロロ

翻訳・発行：日本ウィクリフ

JOMA 価格：500円(送料実費)

申し込み先：日本ウィクリフまで

<電話・ファックス：048-466-3730 >

<メール

[http://jp.f34.mail.yahoo.co.jp/ym/Compose?](http://jp.f34.mail.yahoo.co.jp/ym/Compose?To=office@wycliffejapan.org&YY=58951&order=down&sort=date&pos=0)

[To=office@wycliffejapan.org&YY=58951&order=down&sort=date&pos=0](http://jp.f34.mail.yahoo.co.jp/ym/Compose?To=office@wycliffejapan.org&YY=58951&order=down&sort=date&pos=0) >

* 聞くことの意味とその深さについて教えられる本です

「親身に聴く」

著者：D・アウグスバーガー

発行：すぐ書房

JOMAではメンバーケアの大切さを認識しつつ、加盟団体、宣教師を送り出している諸教会とこの分野での協力関係、ネットワーク作りを願っています。興味関心のある方は以下までメールをどうぞ。

[http://jp.f34.mail.yahoo.co.jp/ym/Compose?](http://jp.f34.mail.yahoo.co.jp/ym/Compose?To=office@wycliffejapan.org&YY=58951&order=down&sort=date&pos=0)

[To=office@wycliffejapan.org&YY=58951&order=down&sort=date&pos=0](http://jp.f34.mail.yahoo.co.jp/ym/Compose?To=office@wycliffejapan.org&YY=58951&order=down&sort=date&pos=0)

永井敏夫(日本ウィクリフ聖書翻訳協会、
JEA 宣教委員 JOMA 担当)

～ JOMA 伝言板～

宣教大会をいっしょに開催しませんか!?

宣教についてもっと知りたい! 宣教の働きに加わりたい! 宣教師のホットな証しや報告を聞いてみたい! 宣教師になりたいけれど、どうしたらいいのかわからない! でも、宣教大会はいつも都市圏だから、なかなかチャンスがない!?

JOMAでは、一人でも多くの日本のクリスチャン、教会、地域の方々に、宣教の情報を提供し、チャレンジを分かち合い、共に宣教の担い手となっていただくために、以下のような協力をさせて頂きたいと考えています。

1. 宣教師など講師、証人などを派遣して協力できます。
2. プログラムの立案からお手伝いできます。
3. JOMAとして宣教大会開催を一部補助するための予算を計上しました。

現在、ある地域の教会からの問い合わせを頂き、宣教大会の企画立案を進めています。ぜひ、JOMA事務局 (jomaoffice@yahoo.co.jp) にご連絡ください。

「JOMA通信」バックナンバーを探しています!!

神の民が前進する時、「原点」に立ち返り、これまでの「行程」を心に覚えるという営みが大切にされてきました。それは、JOMAが新しい時代の宣教に対応してゆこうとしている今も同じです。今回で56号を数える「JOMA通信」は、JOMAの原点とその歩みを記録してきた資料です。しかし、35年の歴史の中で事務所移転などもあり、その草創期にあたる創刊号～11号の「JOMA通信」は欠番となってしまっています。

もし、団体、個人を問わず、1号～11号(その一部でも)を保存しておられる方がありましたら、JOMA事務局にご一報下さい。ご協力をお願い申し上げます。

発行：海外宣教連絡協力会
発行者：池原 三善
住所：〒244-0842
横浜市栄区飯島町2441-10
Tel.045-891-7769
Fax.045-894-2121
e-mail. jomaoffice@yahoo.co.jp
郵便振替：海外宣教連絡協力会
00160-7-106631